

CDS トランザクション必勝法

清原 良三¹ 森 信一郎²

概要: 本稿では、CDS トランザクションの紹介と査読方針、最近の採録率を紹介するとともに、最も多い不採録理由を紹介する。

How to Pass the paper for CDS Transaction

1. はじめに

CDS トランザクションは発行から 10 年たち一定の評価が得られてきていると考えている。本稿では改めて CDS トランザクションの簡単な紹介をするとともに、最近の採録状況などを紹介し、新規に投稿する著者のための有益な情報となる情報を提供する。トランザクションの編集委員はすべてボランティアであり、また編集委員から査読を依頼される査読者もボランティアである。編集委員はすべての論文を採録させることを目標とするが、読者の立場にたった場合に、不明な点が多い論文や誤りのある可能性の高い論文を掲載すると読者を惑わすことになる。そこで、査読者の意見を聞きながら採否を決めている。ここで、採録率が高ければ、編集委員の努力が報われることも多くなるため、本稿では不採録になる原因などにも触れることにより少しでも多くの投稿が採録されるような投稿に結び付けるような内容を目指している。

2. CDS トランザクション特徴

CDS トランザクションは、機関誌ジャーナルと違い、実際に動作するモノを作っている点を重視している。そのため、学術的な新規性を求めるのではなく、実装上の課題や実際に運用できたかどうかなど、製品に近い技術の論文化を追求している。読者にとっては、実用的な製品などを開発する上での有益な情報になり、著者にとっては開発した技術を振り返り、評価することにより、次の開発や改善へのきっかけとするというように、著者にも読者にも利益に

なる形を目指している。また、製品に近い技術の論文化を求める点で、社会人の論文執筆の可能性が高く、執筆から採録までの時間も短くなるように工夫している。具体的には研究会での発表を求め、その発表内容を聞いた上で、投稿した場合の採録の可能性を著者に通知することにより、早期の投稿を促したり、一旦投稿をやめてさらなる研究の進捗を勧めることにより、質を高め、さらに査読期間と条件付き採録の場合の対応期間を短くしている。

3. 投稿手順

3.1 CDS 研究会での発表

CDS 研究会では、6 ページ以上の論文を執筆した上で、投稿し発表する。この論文と当日の発表内容、および質疑応答を総合して、CDS 運営委員会がトランザクションへの投稿に対して、以下の 4 段階の評価を行う。

- S: ほぼ今のままでも採録に値する内容で推薦論文とする
- A: 投稿論文と発表内容、質疑応答などコメントに対応することにより十分採録に値する論文となるので論文を改訂の上投稿を推奨する。
- B: 投稿論文と発表内容、質疑応答などからこのままでは採録は難しいが、研究をより発展させることにより採録になりうる
- C: 現状のままでは採録は困難なため、改めて発表しなければ投稿を許可しない

この中で、S,A,B の評価の場合は、発表後 1 年以内の締め切りのトランザクションに投稿可能である。

3.2 DICOMO での発表

CDS 研究会が共催するシンポジウムには DICOMO があ

¹ 神奈川工科大学
Kanagawa Institute of Technology
² 千葉工業大学
Chiba Institute of Technology

る。DICOMOには多数の論文が発表され、質も高いが、一方で、CDSの運営委員が十分な評価をできる論文は限られている。そこで、DICOMOで発表された論文はDICOMOのプログラム委員会にその評価を依頼し、その評価結果で高いものを改めてCDS運営委員会で評価し、前節の研究発表と同様の基準におけるSおよびAの評価の論文でかつ、CDSトランザクションへの投稿を希望している場合のみ評価結果を通知する。この結果通知を受けた場合は、研究会の時と同様にシンポジウム開催日より1年以内の締め切りの号への掲載を認めている。

3.3 共催研究会での発表

CDSが共催する研究会での発表は、投稿がCDS研究会でなくても、共催する研究会側から推薦があれば投稿可能である。この場合は研究会からの推薦という扱いにする。具体的には、国際会議のCOMPSACのCDS Workshop、今回の研究会も該当する。当該研究会やシンポジウムの委員長からの推薦があれば推薦論文として投稿可能となる。

4. 査読プロセスと最近のデータ

査読プロセスは、情報処理学会の論文誌とほぼ同じでその基準のみ一部違う。基準に関しては文献[1]を参照して欲しい。

表1に最近の投稿数と採録数を示す。例外的に採録率の悪い号もあるが、概ね6割程度の採録率である。なお、この中には、一旦不採録になっても発表から1年以内なら不採録の理由を解消して、新たな投稿として投稿されたものも含まれる。編集委員会では採録の条件を満たすのが短期間では困難と想定された場合で、期限に余裕がある場合はあえて不採録とする場合もあり、できる限り著者の立場にたって編集を実施している。

不採録の理由として最も多いのが、書き方の問題である。研究会の原稿および発表では運営委員の評価は内容に関するものである。一方トランザクションでは発表を聞かず論文だけで理解することになる読者のことを考える。そのため、内容が良く、運営委員会からの評価でAを得たとしても、そのまま投稿して採録されるとは限らない。内容としては有用性が高いと判断されているのであるから、論文として

の書き方などを共著者など指導的な立場の人に読んでもらい指摘してもらうことが重要である。

また、企業の立場で公開できない情報が含まれる場合に、その内容を公開しないと読者が有用性を理解できない場合もある。できる限り許可される範囲で公開するよう努力願いたい。

5. おわりに

本稿では必勝法というタイトルで発表するにあたり、必要最低限のことを記載した。発表時にはQAなどを通して、実際の状況を報告し、トランザクションへの投稿予定の方々には有用な情報を提供したいと考えている。

参考文献

- [1] 情報処理学会論文誌：コンシューマ・デバイス&システム、https://www.sig-cds.net/cds-trans/trans_info.(accessed 2020/09/07)

表1 最近の投稿数と採録数

号	投稿数	採録数	採録率 (%)
24	14	10	71
25	9	5	56
26	9	5	56
27	8	5	63
28	12	2	17
29	9	5	56
30	5	3	60
31	9	6	67